

2 平成30年度の大学運営

平成30年度は、第3期中期目標期間の3年目に当たり、以下の事項について、学長のリーダーシップの下、特に重点的に取り組んだ。

一つ目に、「**学校現場でアクティブ・ラーニング（AL）を実践できる教員の養成**」に向けて、平成31年度から実施する新教育課程による授業科目を開設するに当たり、新教育課程におけるアクティブ・ラーニング推進に関する取組の成果を把握するため、シラバスに「アクティブ・ラーニングに関する事項」欄を追加した。平成31年度シラバスを基に全授業科目を対象としてアクティブ・ラーニングを取り入れている科目の調査を行った結果、全授業科目におけるアクティブ・ラーニング導入率は、学士課程76.5%（796科目／1041科目）、修士課程76.7%（656科目／855科目）、専門職学位課程89.9%（195科目／217科目）、大学院全体で79.4%（851科目／1072科目）となった。（平成30年度は、学士課程60.6%、修士課程59.0%、専門職学位課程82.3%、大学院全体で61.7%）

また、アクティブ・ラーニング環境の整備として、グループ学習やプロジェクト学習、プレゼンテーション等が円滑にできるよう、大型教室2室をネットワークフリーアクセスに対応したOAフロアに改修等を行った。

二つ目に、「**特別支援教育に関する6年一貫プログラム**」の実施に向けて、学部段階で所用の授業科目の単位を履修することとするなど、所用の規程を整備し、平成31年度学部入学者から適用することとした。

具体的には、インクルーシブ教育システムの構築が期待される特別支援教育の必要性と需要の動向に鑑み、学部において基礎的学修を修めた後に、大学院において特別支援教育に関する学修・研究を積み重ねるプログラムを導入した。

プログラム受講者（養成人員は各入学年度ごとに10人まで）は、特別支援学校教諭一種免許状に関わる大学院の授業科目10単位を上限として履修することができる。このことにより、特別支援教育に関する学修を段階的に発展させることができるほか、早期から特別支援教育を幅広く学ぶことができる。

三つ目に、「**学校現場が抱えている課題をテーマに設定したセミナーの実施**」として、平成30年度においては、若手教員が抱えている課題の解決の一助となることを目的とした「若手教員向け教師力向上セミナー」や教員として正式採用を目指す講師・非常勤講師・教育補助員等を支援すべく「効果的な論文の書き方」「面接指導」「模擬授業演習」などを学ぶ「教員採用選考検査対策セミナー」など、104回（平成28年度50回、平成29年度91回）のセミナーを実施し、参加人数は1,542人であった。

参加者アンケートにおいて、「自主セミナーは、教師力の向上に役立つ」との設問に「そう思う」または「だいたいそう思う」と答えた参加者は98.3%、「学校の課題解決に役立つ」との設問に「そう思う」又は「だいたいそう思う」と答えた参加者は94.1%であった。これらのアンケート結果から、本セミナーを受講した成果が学校現場で活かされているものと考えられる。

四つ目に、「**学校支援プロジェクト**」として、教職大学院では、専任教員、現職教員大学院学生及び学部卒大学院学生が支援チームを編成し、連携協力校に入って学校現場の課題解決に参画している。「学校支援プロジェクト」は、教職大学院のカリキュラムの中核として、学生が理論と実践の往還を通して課題解決能力を身に付けるもので

あると同時に、学校現場と連携した課題解決への支援が地域貢献にもつながっている点が特色となっている。

平成30年度は、59校・機関から68件の学校支援プロジェクト連携希望（1校で複数の連携テーマの希望が7件）があり、連携希望書の内容を考慮した上で42校・機関の43件を選定し、43チーム（平成29年度 35校・機関の41件、41チーム）で実施した。また、その成果を平成31年2月に開催した学校支援プロジェクトセミナーにおいて広く地域に発信し、関係者254人の参加者を得た。

平成31年度の大学改革に伴い、多くの大学院学生（最大600人）が学校現場に入ることから、本学と上越近隣4市（上越市、妙高市、糸魚川市、柏崎市）の教育委員会及びそれぞれの校長会が協働し、責任をもって学校実習を地域で支える体制整備を図ることを目的に、「学校実習コンソーシアム上越」を設置した。本機関は、4市教育委員会及び本学が分担金を拠出する等、近隣4市との緊密な連携関係のもとで運営されるものである。本機関が大学院学生と学校現場とのマッチングやコーディネートを行うことにより、学校実習が円滑に実施される。

また、上記の他、本学独自の特徴的な取組としては、以下のことを掲げることができる。

平成30年4月に公益財団法人上廣倫理財団からの寄附13,000千円により、寄附部門として「上越教育大学上廣道徳教育アカデミー」を設置した。また、本学の創立40周年を記念した地域貢献・地域連携事業の実施及び教員を目指す学生に対する奨学支援の拡充に向け、学長、理事、副学長等が中心となり、積極的な募金活動を展開し、平成30年度末時点で22,942千円の寄附金を受け入れた。これらの取組の結果、平成30年度における寄附金に係る外部資金比率は約1.0%（対前年度比0.7ポイント上昇）となっている。